

文部科学省「研究大学強化促進事業」広島大学 ～人類の未来社会に貢献する大学～

平成25年度配分予定額：300百万円

多様な研究成果が人材育成、産業活性化・イノベーション創出に直結し、人類の未来社会に貢献する世界トップレベルの研究大学を目指し、以下の研究力強化に取り組む。

- 学術系・専門系・事務系人材が総合力を発揮できるURA組織体制を整備し、研究戦略から資金獲得、プロジェクトの立ち上げ・実施、成果の活用・発信まで一連の研究支援活動を実施
- 多段階の研究拠点育成・選定システムを整備し、URA等による重点支援を実施
- 個人評価の点数化・処遇への反映、年俸制の適用拡大により、研究人材を確保・育成
- ライティングセンターの拡充、研究者招聘、国際共同研究支援等により、国際研究活動を活性化

【課題と強化方針】

研究環境・支援体制が不十分

- 研究者自らが管理業務等を行わなければならない環境にある

大型プロジェクト・融合型研究が少ない

- 大学として支援・育成し、融合領域の組織化を行うという姿勢が消極的

トップ研究者の層が薄い

- 競争的環境の醸成が出来ていない
- 優れた研究者を評価して処遇する制度が不十分

国際共同研究・国際的な成果発信が不十分

- 海外との交流・連携体制が不十分
- 国際発信意識が希薄

(1) URAをはじめとする研究推進体制・研究環境の整備

(2) 世界的研究拠点の継続的創出

(3) 優れた研究人材の確保・育成のための競争的環境の確立

(4) 国際研究活動の活性化

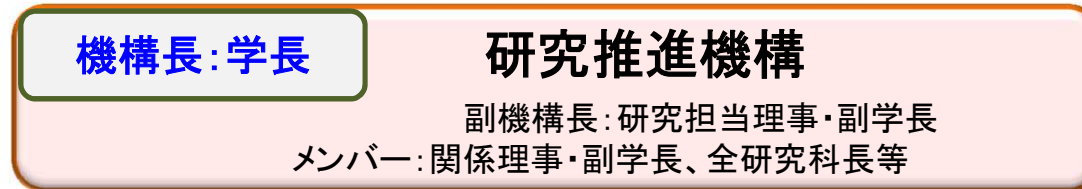
世界Top 100
の研究大学
へ飛躍



URA組織体制の整備

意思決定

H24.10設置済



実施機関



3層のURA

シニアURA, URA
アソシエイトURA

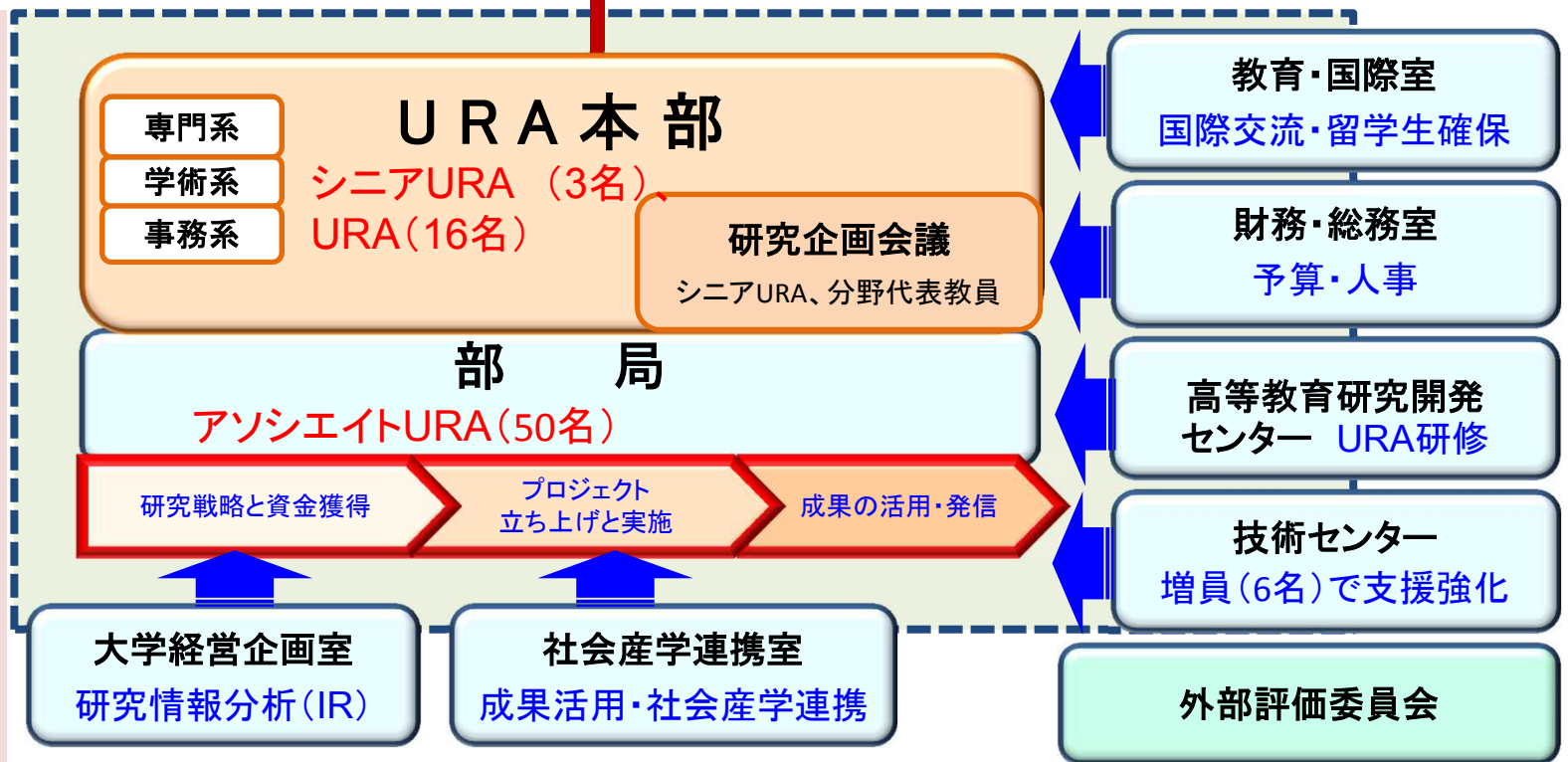
学術系、専門系、事務系

異なる得意分野
チームで支援

シニアURA 2名、URA 8名 新規雇用

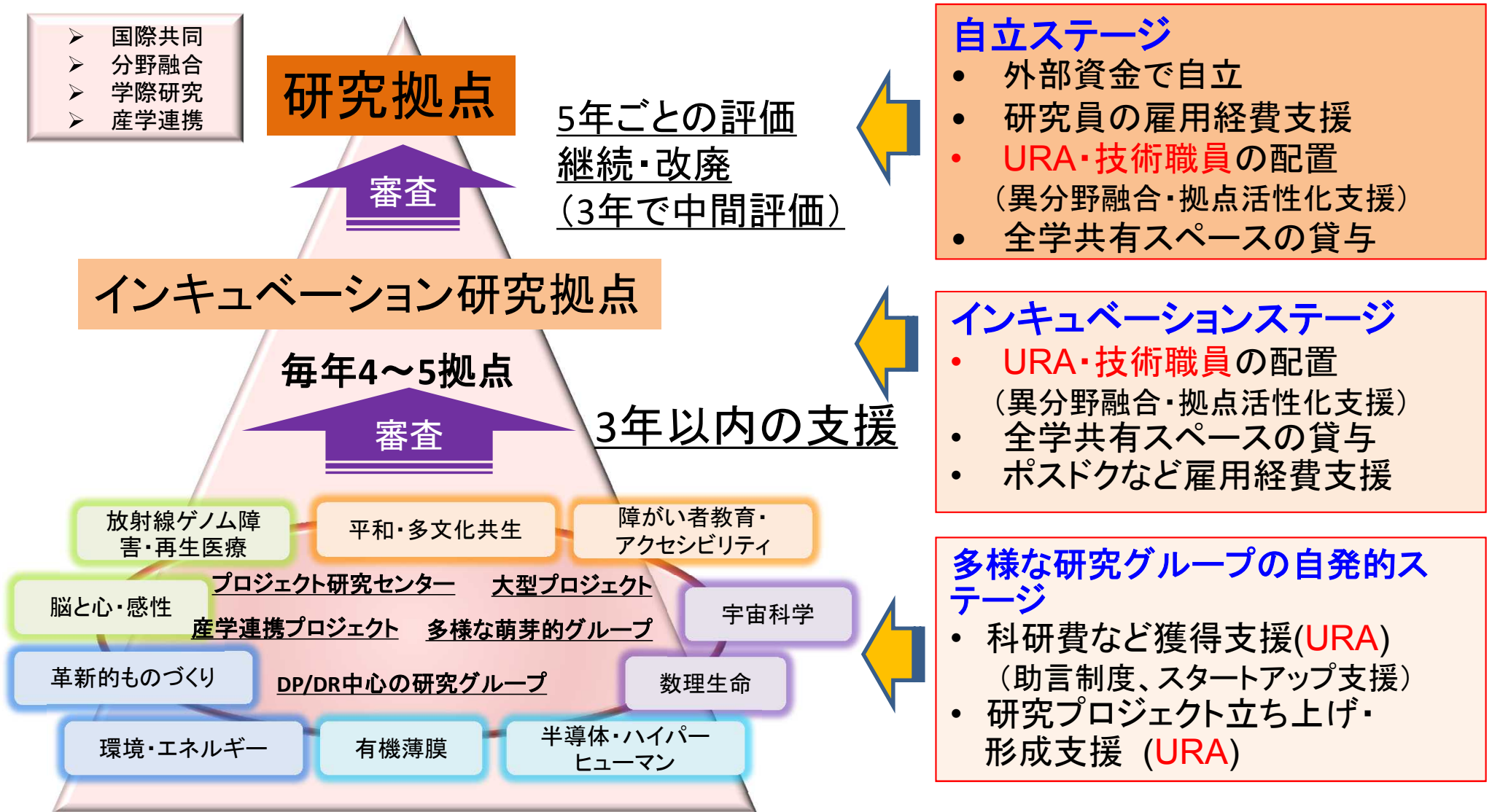
年俸制を基本

本学独自のURA人材育成プログラム の開発・運営



事業評価

研究拠点育成・選定システム整備



「研究拠点」「インキュベーション研究拠点」は研究推進機構で選定、定期的な外部評価を行う

人事システム改革

○個人評価の点数化と処遇への反映(ボトムアップ)

個人評価の点数化(教育・研究・社会貢献等)
(工学研究院においてH22から先行実施)

→個人に結果を公開 →処遇への反映

【効果】 国際論文数の増加

教員の役割分担の適正化



人事評価システムの「全学展開」

※国際研究活動を重視

(SCI論文、高IF誌への投稿等)

多様な人材の確保

○年俸制の適用拡大

若手人材	テニュアトラック制度(研究リーダー型・一般型)を全学的に適用
女性研究者	部局ごとに数値目標を持ち、全学運用人件費ポイントを活用して増加
外国人教員	国際公募と年俸制により、優れた外国人教員を確保する。事務の国際化対応を推進
留学生	学長等によるトップリクルート活動、現地入試拡大等

国際研究活動の活性化

○研究成果の国際認知度の向上 (システム化と個別支援の効果的運用)

海外発信力の向上

- ライティングセンターの拡充
 - 国際発信力育成教育: ロジカルライティング、英文作成指導他
 - 国際発信支援業務: 論文の英文校閲、人文社会系の英文発信支援(英語抄録・叢書の発刊)

留学生受入増

- 英語による授業の拡大
(平成29年度までに約300科目から約1,600科目へ)

国際共同研究活性化

- 海外有力校との博士課程ダブルディグリーシステム
- 国際共同研究のための客員(特任)教授の招聘
(サバティカルリーブの利用、大学院集中講義との組合せ)
- 研究者の国際共同研究支援(渡航、滞在費等)